

令和7年度		令和8年度	
年度 内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	【成果】 ○算数では、学力アップタイムを活用したり、EDOスクや授業での少人数指導を工夫したことにより、正答率が上がった。国語では、文章指導に力を入れたり、高学年の教科担任制を通して指導を統一したりしたことにより、基礎問題において正答率が上がった。 【課題】 算数・国語ともに応用問題の正答率が低い。文章を書く問題では、解答できている児童が少ない。	○算数・国語ともに正答率7割以上、応用問題での解答率10割を目指す。 ○文章問題に対する苦手意識を払拭できるような指導を継続する。	○学力アップタイムを活用し、反復学習を行う。学期ごとに重点課題に取り組むようにする。 ○YOMUよむワークシートを活用、文章力の向上を図る。
第1学年	【成果】 ○学力アップタイムで毎時間算数のプリントに取り組むことで、学習内容を定着させることができた。漢字指導を丁寧に行ったことで、正答率が読みは9割、書きは8割ほどになった。 【課題】 ○読解力が低く、国語の読み取り、算数の文章題ともに正答率が低い。	○ひらがな・カタカナを書けるようにする ○漢字の問題の正答率9割 ○計算を素早く正確に行えるようにする	○ひらがな・カタカナ・漢字の指導を丁寧に行い、家庭学習でも繰り返し学習する。 ○学力アップタイムを活用し、たし算・ひき算の反復学習を行う。
第2学年	【成果】 ○毎日の音読や漢字指導において、言葉集めを行ったり、丁寧に書き方の指導を行ったりしたことで、語のまとまりに気を付けて読んだり、語彙を増やしたりすることができた。 【課題】 ○計算力において、既習内容を忘れてしまっている児童が多かった。 ○問題の意味を理解できない児童が多く、適切に答えることが難しい児童が多く見られる。	○計算を素早く正確に行えるようにする ○読解力を向上させ、初めて見た形式・文章の問題にも答えられるようにする。	○読書に力を入れ、語彙や表現方法の獲得、文章をしっかり読むことを習得する。要約、日記、文章作りなどから、文章を読む際に重要な点を理解し、それをまとめる力をつけていく。 ○学力アップタイムを活用し、計算の練習に繰り返し取り組む。
第3学年	【成果】 ○学力アップタイムを活用し、計算の基礎基本に取り組み四則演算に関する正答率が増加した。国語科では、構成を意識した作文に、年間を通して取り組んだ。自分の考えを書くことに対する抵抗を少なくすることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果、漢字や言葉などの国語に関する基礎基本が課題であることが分かった。算数では、わり算の計算に課題が見られる。	○自分の考えや思いを表現することや、覚えた言葉を適切に使用していけるようにする。 ○計算の基礎基本に取り組み、早く正確に解くことができるようにする。	○家庭学習週間を利用し、言葉集めや日記に力を入れ、語彙を広げたり、自分の思いを適切に表現できるようにしたりしていく。 ○各教科で何を問題にしているのかを整理したり、問題の考え方を理解したり、自分で解く力を付けさせていく。 ○学力アップタイムを活用し、たし算・ひき算のひっ算や、かけ算九九を繰り返し練習していく。
第4学年	【成果】 ○答案は最後まであきらめず空欄を減らすよう指導したことで、粘り強く取り組むことができた。 国語では、児童同士で要約した分や自分の考えや意見を発表し合う機会を多く設けたことで、話すこと聞くことの領域で全国の平均に近い点数をとることができた。 【課題】 ○自分の考えを書くこと、意見に対する理由を表現することが難しい。語彙力に課題が見られる。	○国語、算数ともに基礎基本の定着を図り、関連指標の正答率7割を目指す。 ○算数の文章問題や、国語の初出の文を自力で読む力をつける。応用問題に関する関連指標の正答率7割を目指す。	○学力アップタイムを活用し、かけ算、わり算、分数の計算を繰り返し練習していく。 ○学力アップタイムを活用し、始めて読む文章を要約したり、読んだことに対して自分の考えを各活動を取り入れていく。これらの取り組みが、各教科の学習にも生かせるように工夫する。
第5学年	【成果】 ○調査の結果、基礎問題においては国語の正答率は5割から6割に、算数の正答率が6割から7割へと増加した。日々の学習においては、国語科では、教科担任制を通して、全学級が統一した指導することができた。算数科では、少人数指導や補習を通して、個の学力に応じた指導を行うことができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果、国語、算数共に応用問題の正答率が低いことがわかった。特に文章を書く問題では、解答できている児童が少ないというのが現状である。	○算数の基礎・基本的な学力の定着を図り、江戸川区学力調査の基礎問題の平均正答率を7割を目指し、応用問題は6割を目指す。 ○国語科では、目的や意図をもって文章を書く力を伸ばす。 ○国語の基礎・基本的な学力の定着を図り、江戸川区学力調査の基礎問題の平均正答率を8割を目指し、応用問題は5割を目指す。	○学力アップタイムを活用し、小数・分数の計算、図形領域を重点的に繰り返し練習を行う。 ○よむYOMUワークシートの取り組みを通して、大事な言葉や文を読み取れるように、繰り返し練習していく。
第6学年	【成果】 ○国語科では、教科担任制を通して、全学級が統一した指導することができた。江戸川区学力調査の結果から、児童の漢字の書き取りの正答率が高かった。算数科では、少人数指導で授業の流れを統一して、児童にわかりやすい指導を行うことができた。また、日々の基礎学習を行うことで、東京都BDの結果を向上させることができた。 【課題】 ○江戸川区学力調査の結果から、国語の「説明的文章」、算数の応用問題の得点率が低かった。	○国語、算数の基礎・基本的な学力の定着を図り、江戸川区学力調査の基礎問題の平均正当率8割、応用問題の解答率10割を目指す。 ○問題に対し、自分の意見や考えをもち、文章で表現できるようにする。	○国語科では、前年度の取り組みに加えて、漢字や言葉の使い方等の学習を定期的に振り返る時間を確保する。また、読売新聞社の取組であるYOMUよむワークシートや長文読解を目的としたプリントを活用し、文章力の向上をはかる。 ○算数科では、習熟度別の指導に加え、補習やAIドリルを利活用し、個に応じた指導を行う。